



安全安心な観光県「あおもり」推進事業について

青森県

青森県では東日本大震災を教訓として、災害時の観光客の安全確保や関係機関との連携体制など観光危機管理の必要性について、県内の自治体、観光関係者等に普及啓発を図るとともに、災害時の連携体制・役割分担等に取り組む地域モデルの創出に取り組むなど、安全安心な観光県「あおもり」の実現を目指しています。

平成23年の東日本大震災では、本県は地震や津波による直接被害に加え、長期間に及び停電や燃料不足に陥りました。その際、観光関係業者等の危機管理に対する基本的知識や対策の不足による混乱が各地で発生し、多くの観光客の皆様が安全に対する御心配を掛ける結果となってしまいました。

この反省から、災害等が発生した場合でも、観光客の安全を最優先に確保するとともに、無事に帰宅できるような体制を構築することで、多くの観光客の安全に対する不安の解消と青森県観光への信頼の向上を図り、更なる観光客の増加につなげるため、本事業に取り組んだところです。

具体的な取組としては、平成24年度は十和田湖・奥入瀬渓流地域を、平成25年度は日本海側の深浦町役場周辺地域をモデルにし、山・海それぞれの観光危機管理地区モデルを作成することで、観光地が一体となった観光客の安全確保への意識形成や連携体制の構築を図っています。両地区では、観光客の安全確保という観点から、各行政機関や観光に携わる方々によるワークショップを重ね、主要な観光施設、商業施設等における安全対策や設備等の現状を確認しながら、観光客の安全や滞在施設の確保などに向けた意識形成や役割分担、連携体制の検討・構築を行いました。そして、これらの成果を取りまとめた「観光危機管理マニュアル」を策定し、地域の観光業従事者等に浸透を図ることで、観光客の安全を守り、無事な帰宅を支援する体制づくりを進めています。



▲深浦地区 第1回ワーキンググループの様子

青森県では、今後、全ての観光地でそれぞれ観光危機管理体制を整えることを目標に掲げており、全国の皆様安心して旅行に訪れることができる、安全安心な観光県「あおもり」の形成を図っていきます。

「東北六魂祭2014」が開催されます

東北運輸局

東北六魂祭は、2011年3月11日に発生した東日本大震災により犠牲となった多くの魂を弔い、東北の元気を発信し、復興への^{のろし}狼煙をあげるお祭りとして2011年の仙台市での初開催以来、盛岡市、福島市と回を重ね、今年は5月24日、25日に山形市において開催されます。

六魂祭では、青森ねぶた祭、秋田竿燈まつり、盛岡さんさ踊り、山形花笠まつり、仙台七夕まつり、福島わらじまつりがパレードするほか、航空自衛隊松島基地所属の飛行チーム「ブルーインパルス」の展示飛行、「音楽イベント・六魂Fes!」として豪華アーティストが出演するライブなど盛りだくさんの内容になっておりますので、ぜひ山形市にお越しください。

開催日時 5月24日(土)10:00~18:00、25日(日)10:00~17:00

詳細は「東北六魂祭」→ <http://www.rokkon.jp/index.html>



「東北一体」での取組強化へ ～東北の「成長戦略」原案が出される～

東北地方産業競争力協議会 事務局（東北経済産業局）

東北6県と新潟県の産学官金で構成する「東北地方産業競争力協議会」の第2回協議会が3月27日、秋田市で開催されました。

本協議会は平成25年11月19日に設立され、これまでは「復興からの新産業創出」、「地域資源の新たな魅力発掘」、「自動車産業集積」、「医療機器産業集積」の各ワーキンググループ毎に多様な議論を重ねてきました。

また、全国各地の有識者等から「東北の強みを考えるアンケート調査」を実施し、東北についてのイメージや東北を代表するものを挙げてもらい、今後東北として強化するべき取組みや方向性についての貴重な意見が多く集まりました。今回の第2回協議会では、これらの取組みにより得られた生の声を集約することにより出来上がった、協議会の「とりまとめ」最終案が提示されました。



▲東北地方産業競争力協議会の様子

「とりまとめ」では、東日本大震災からの復興を進めるため、再生可能エネルギー分野などの新産業創

出や祭り、食文化、湯治場など東北が持つ様々な観光資源を「東北ブランド」として一体的に売り込むこと、さらには自動車・医療機器産業などの成長産業を牽引役として競争力の強化を図るとともに、地場産業の参入を促すことや税制優遇などの特区を創設して企業を支援するといった提言も盛り込まれました。

「東北ブランド」の発信策の1つとしては、7県の知事が出演するプロモーションビデオの制作によるPRも提案され、これまでにない新しい取組みも提案されました。

この日の協議会において新たに出された意見を反映させた「とりまとめ」の最終版は、4月16日にまとめられ、さらに全国9地域の協議会の戦略が集約されて、国の成長戦略が6月に改定される見通しです。

今後は、今回示された各取組みの方向性を現場レベルで如何に政策に反映させるかが重要になると思われます。

東北並びに他地域の協議会については、こちらをご覧ください。

- ・経済産業省HP「地方産業競争力協議会」

http://www.meti.go.jp/policy/local_economy/chihoukyougikai/tihoukyougikai.html

推進室の一員となって

東北圏広域地方計画推進室 副室長 吉田 清一

(東北運輸局企画観光部 計画調整官)

4月1日付けで副室長に着任しました吉田と申します。よろしくお願ひします。

東北の太平洋沿岸部地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災の発生から3年が経過し、被災地では復旧・復興に向けた取組みが着実に進んでいます。しかしながら生活の再建や産業の回復等、真の復興への道のりは長く、壊滅的な被害を被った南三陸町に生まれ育った私としましては、人一倍、一日も早い復興を願わずにはられません。

桜前線もあつという間に北上していき、これからの季節、本格的な観光シーズンを迎えますが、震災発生以降、東北圏への観光客は激減しました。その後、徐々に回復はしてきているものの未だ、震災以前の状況まで至っていません。

このため東北運輸局では各県や観光関係者等と連携し、国内外に向け東北の観光魅力を情報発信する事業を実施する等、東北圏への誘客増加に繋げる取組みを行っているところです。東北の観光が早期に回復し、東北圏全体の活性化につながることを願っています。

さて、推進室では現在、広域連携プロジェクトの推進状況を検証するため、計画のフォローアップ作業を行っています。推進室の一員として少しでもお役に立てればと思っているところです。

編集後記

皆様、ゴールデンウィークは、どのように過ごされましたか。ご家族あるいはご友人と旅行にレジャーと心身ともにリフレッシュされましたでしょうか。私事ですが、ゴールデンウィークは、日帰りで岩手県雫石町にある小岩井農場に行っていました。晴天に恵まれ一本桜も綺麗に咲いており、心癒やされる1日でした。

今月は、山形市で『東北六魂祭』も開催されますので、ゴールデンウィークにリフレッシュされた方もそうでない方も、ぜひ足を運んでいただき開催を盛り上げましょう。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。

メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp